

(別様式)

地域の読書ボランティア等への講師派遣事業

## 「読み聞かせボランティア研修会」について

～ 笠岡市読み聞かせボランティア実行委員会 ～

### 1 事業のねらい

- ・ 絵本とじっくり向かい合い、絵本の解釈を読み聞かせに生かしながら、絵本を通して子どもたちの豊かな表現力・想像力を養う文化環境の場を提供する。
- ・ 高校生には、学外での活動で子どもをはじめ様々な人と関わることを通して、一人の市民として立ち振る舞う自覚を持ち、社会に適用する『交流力』を培う。
- ・ 地域の子どもたちとの交流を通して、ボランティア自身の学習の喜びと生きがいを育む。

### 2 事業の特徴、工夫点

- ・ 実践力や本の選択の仕方を身につけるために学習を重ね、小学校・保育所・子育て支援等に読み聞かせを実施し、子どもたちと互いに交流した。
- ・ 8回の研修会うち3回は岡山龍谷高等学校を会場に、幼児・保育コースの生徒と一緒に研修会に参加した。その後、生徒は笠岡小学校の読み聞かせに参加し、研修の成果を発揮している。

### 3 事前準備等具体的な事業の流れ

以前から交流のある岡山龍谷高等学校に会場を依頼し、岡山龍谷高等学校幼児・保育コースの生徒の金曜日・7時限目の授業を研修会にさせていただくよう要請し3回の研修会を高等学校で行うこととし、後の5回は、日曜日に行い、仕事をしている人にも参加できるように考慮した。

講師は、笠岡市と提携している就実大学の教授、山根薫子先生に4回（内3回は龍谷）来ていただき、そのほか、尾道市子どもの本を読む会代表 堀純子さん、浅口市 にじの会代表 高本靖子さん、尾道市子どもの本を読む会代表（尾道FMパーソナリティ） 河上典子さん、岡山市めじる文庫 赤松百合子さん をお願いした。

### 4 研修会等の様子

・ 尾道で活躍されている堀純子先生は、朗読・発声法など基本をしっかりと学ばれており『すみれじま』の絵本を読んで下さったときには、涙されている方が大勢いた。読み手の力でこんなに伝わるのか。（基本をしっかりと勉強しなくては）

「絵本の読み聞かせによって、生きる力・ふれあい・ことばの力を育てたい」と、締めくくられた。



(別様式)



基本を教えて下さる山根先生(龍谷高校)にて

・表紙からしっかり押さえて全部を開いて子どもたちに絵がしっかり見えるように、次ページからも中央をしっかりと押さえて絵全部を子どもたちに届けられるようにする。面倒がらずに1ページすべての魅力を伝えられる等に準備することが大事。

・子どもたちに優しい言葉で語りかける。

正しい文法に沿って読みかたっていくことで自然に日本語

例『おおきなかぶ』の本

・[おじいさんがかぶをぬこうとしていました。]・[かぶをおじいさんがぬこうとしました。]のどちらを選びますか？ 小さいころから耳にした日本語はどうであったか自然に覚えている。

など、基本を教えていただきました。

## 5 成果と今後の課題

・今まで、小学校校区のみで活動していた読み聞かせボランティアたちが、今回の講師派遣事業で笠岡市全域及近隣都市の読書ボランティアが交流できた。今後も引き続き交流していきたい。

・ただ上手に読むことだけでなく、腹式呼吸(声をどのように出すか)・呼吸法のトレーニングなど、心に届くような読み方ができるように毎日の訓練をこころがける。

・できるときにできることをする・無理をしないようにというのがボランティアの鉄則ですが、読書ボランティアをする時、学校や園の都合をしっかりと聞いてほしい。その場合、コーディネーターがいるとよいが、現時点ではない。コーディネーターを養成する必要がある。